

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 青井 香乃

## 1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、2023年3月6日から3月16日に、オーストラリアに語学留学をしたので、報告いたします。滞在期間中は、ニューサウスウェールズ州にあるTAFEという学校に通い、その学校から車で20分ほどのところにホームステイをしました。この留学プログラムに参加したのは、英語力とコミュニケーション力の向上と、日本と海外の薬剤師の役割の違いを学ぶこと、また、文化の違いに直に触れてみたいと思ったからです。

## 2. TAFEでの生活

まずTAFEとは、ただの語学学校とは異なり、ビジネスやファイナンス、アート、デザイン、ツーリズム、航空、教育、動物・農業学、医療・看護、美容、建築など、趣味レベルのものから就職にも繋がる本格的なものまで学べる様々なコースがある専門学校です。

### ・授業

平日は授業があり、午前中はEnglish Classがありました。English Classは、とても楽しい参加型の授業で、楽しく英語を学ぶことができました。ホストファミリーと会話をするために役立つフレーズを練習したり、会話のネタになるようなホームワークを出していただきありがとうございました。

午後はPharmacy Classがありました。Pharmacy Classは、オーストラリアでの薬剤師や病院の役割などを学び、日本との違いを感じることができました。他の大学を訪問したり、アボリジニの文化を現地に行って学んだりとても充実していました。

授業は全て英語であったため、最初は英語になれずなかなか聞き取れなかったり、先生と話すことができるか不安ではありましたが、授業前後にもお話しすることもできて嬉しか

ったです。



### 3. ホームステイ先での生活

平日の学校前には、少し早めに家を出て、ホストファミリーがビーチに連れて行ってくださいました。綺麗なビーチで散歩をして、いつも違う道を通って案内をしながら学校まで送ってくださりました。学校後は、野生のカンガルーを見に行ったり、景色のいい場所に連れて行ってくださったり、ホストファミリーのお孫さんが遊びに来てくれたりしました。ごはんは毎日作ってくださりました。とても美味しく、毎日ごはんを食べることが楽しみでした。ごはん中の会話も楽しみであり、毎日色々な会話をしました。



ホームステイ先は友達と2人で一緒でした。ホストファミリーと英語で会話するため、うまく聞き取れるか、言いたいことがつたえられるかがものすごく不安でしたが、思っていたよりもコミュニケーションを取ることができました。最初は聞き取れなかった英語も、3

日くらいすると耳が慣れてきてある程度は聞き取れるようになり、全て聞き取れなかったとしても何を言っているのかを理解することはできるようになりました。少しずつ英語力やコミュニケーション能力が高まっていることを実感できたので、モチベーションもあがり、楽しく毎日を過ごすことができました。

#### 4. まとめ

今回このプログラムに参加するにあたり、英語がほとんど話せず海外に行くのも初めての私にとっては不安もいっぱいありました。しかし、この研修中に私に関わってくださった方がみんなとても優しく、人と環境に恵まれ、とても楽しく貴重な経験をすることができました。ホストファミリーとはたくさんの会話ができたものの、もっと本当は話したいことがありました。そのため、これから英語をもっと勉強し、成長してからまた会いに行くという目標ができました。ホストファミリーには、本当に感謝でいっぱいです。

今回オーストラリアで経験したことは、自分の中で貴重な財産になることばかりだったので、このプログラムに参加して本当に良かったと思います。参加させてくれた両親に感謝し、これからもいろんなことに積極的に取り組んでいきたいです。